

釣りの秘訣 けつ パートIII

趣味

浜田広信(植田)

前回はスズキとエバの回遊する季節を書いてみた。今回は問題のチヌである。浦戸湾へ釣りに行くといえ、ただでもチヌを想像する。それだけチヌは多い。また年中釣れ、大小それぞれ時期が異なる。

まず、小チヌは湾の奥の方で産卵し八月の末、高知では一宮神社の志那祭祭前後に五台山の法師が鼻前から釣れ始め、次第に南下する。最初のころは仕掛けはブラカコヅキでよい。新子の小エビを生きたまま刺し、少しハリスを短くし、遠くへ投げて追わすようにしてあたりを待つ。大勢の舟が集ま

り競争になっておもしろい。

それから九月、十月と魚が太り、セメント会社前か果山付近から精華園病院前より湾口にかけて釣れる。そのころはハイカラを使い、昼はエビ、夜はゴカイの餌で釣る。旧暦の十三日夜か二十日ころまで、月のあるときがよい。

特に外洋からの入魚をねらえば、種崎の海水浴場前で四歳、五歳の親チヌが食う。主として夜間で、数は二、三尾でも興味が違う。チヌは釣っておもしろい。また、タイ科であるので食ってうまい。生でよし、煮てよし、焼いてよし、高級魚である。

これまで書いたのは主としてキチヌのこと。これと交じっているのがクロコで「海で難しいのがクロコ、川で難しいのがイダ」といわれるほど、代表的な餌取りの先生。コッコと二度くる。針があると思つたらやめ、餌を取って逃げるこすいやつだ。

それで戦後、友人が釣り屋をしていた関係で香川県の釣り屋に連絡してまむしを取り寄せてくれ、最も多い御嶽の市場前に行つてやつてみたところ、まむしを二十寸くらいに切った餌は、なかなか食い切れないので釣れた。しかし、高価なまむしでクロコを釣つては引き合いにならない。

大クロは小クロと違いあたりが別だ。六月の梅雨が上がった月夜、長浜川尻で食う。特に別荘前に隠れたハエがあり、かつ、砂や泥がある所をよく食う。あたりは一口にがぶとくる。大きさは四十センチ物で外洋からの入魚で、エビに食いつく。一夜に二、三尾も釣れば上等。タイ科で前記チヌと同じ高級魚である。

次にスミヒキ。浦戸湾には多い。浅い磯に群棲し秋の夜釣りであった。御嶽のタンク前から寺前の磯または浦戸の別荘下におり釣れる。浦戸の御殿前は真っ黒い大物が釣れる。ここは潮の流れが速いので潮の止まったときを見計らつ

て釣らねばならぬ。尺に近い物があたる。ところが、この魚はひれが特に堅いので手を刺されて痛い。そうかといつて手袋を着けると餌を速く刺すのに不便だ。そして、特殊な共鳴器を持つていて、舟の中に入るとトオトオと発音するおもしろい魚だ。味はかなりうまい。煮つければ肉が二つに分かれる。骨が硬いので子供は注意を要す。

最後はニロギ釣りだ。浦戸湾には特に多く年中釣れる。九月、十月は味が出る。特によだれが出るころがうまい。湾内の行楽の釣り舟遊びを兼ねて家族連れや子供でも釣れる愛敬ものだ。

ニロギ釣りの仕掛けは通常、柄長の七分で釣る。女性や子供はゴカイの餌がむかでに似ていると言つて恐ろしがる。それで、近ごろは市販のカブラの疑似針にアミの寄せを小形のあんどんびしに入れて釣るのが楽である。それにカブラ針が七本ほど付いているので一度に二尾も三尾も食い付きおもしろい。味もおつゆにすればおいしい。秋のまつだけを入れれば満足。

ところが、若いころは「ニロギかたけ釣つて」とニロギ釣りを軽べつするが、おいおい釣りの趣味が出来ればこの釣りに目を寄せるようになる。



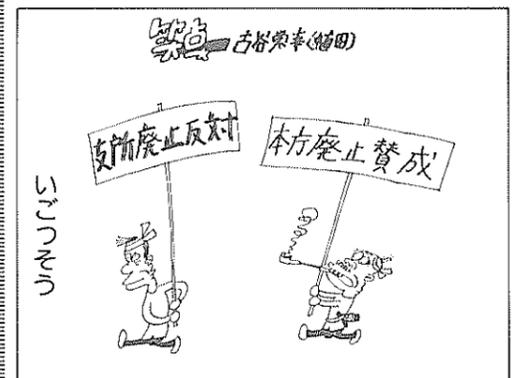
比江の長田繁則さん



比江の水源寺入口の小さな池に、かわいいアヒルとアイガモが仲よく泳ぎ回っています。今年、安芸市から引越して来た長田繁則さんは五月末に、後免のペットショップで、この二羽を購入。最初は十センチくらいでヨチヨチ泳いでいたのが、今は成長して四十センチくらいになりスイスイ。泳ぐ姿がとてもかわいく近所でも評判です。

長男の豪君(園分小五年生)は、毎朝登校前にえさをやるのが役目。長田さんの家族は「早く、子どもができるのが楽しみです」と話していました。

『ほのぼのの広場』に、あなたの身の周りのほのぼのとした話題や我が家の自慢料理、読書の感想など、お気軽にご投稿ください。
▼投稿先・〒783 南国市大浦甲二二〇一 南国市役所広報委員会まで。



親子のふし 162

ご家庭で話し合せて答えてください。答えは、この広報に出ています。

■もんだい・三代交流ゲートボール大会へ、県代表として南国〇〇〇〇〇〇〇〇が出場。
■しめきり・7月15日
■あて先・〒783 南国市大浦甲二二〇一 南国市役所内広報委員会親子クイズ係

■答えのハガキには必ず、住所氏名、年齢、職業を書いてください。
■賞品・正解者の中から、抽選で五人に図書券を進呈。
第10回当選者発表(敬称略)
(応募総数40通)
■答え・(9)10
■当選者五人
吉田まり(立田)
竹内啓子(大浦)
川野佐代子(大浦)
西山裕三(片山)
大崎通子(大浦)

アヒルとアイガモ 仲よくスイスイ

南国歌壇

早ばやと鳴門大橋渡りゆき
愛ランド行く「世界の旅」よ
西島 岡林きよ
朝露を含み露草競い咲く
大和露草愛ほしき沸く
下野田 徳久まさみ
空と海の青きに映ゆる銀装の
鳴門大橋渦もかがよふ
西島 高橋佐代

南国柳壇

内孫の命母のかに兆すとて
すがしき友の笑顔に逢いし
前浜 沢田千恵子
相場買え不在ですよとよとみなく
小さな嘘で逃げたる電話
篠原 山本 茂
友たちとゆけば名も無き温泉さえ
心明るく安らぎのして
後免町 刈谷益子

南国俳壇

一字一字おさえて書き孫へ文
里改田 下総金子
柳若葉夕顔の天ぶら決まりけり
立田 北村幸江
支所廃止苦肉の策と言うけれど
岡豊町 橋田井波
九十二の余生へ庭の土と生き
古市 島田稔子

ひがむのはおよしよ ポブラ又揺れる
登りつめ がつと光った 仁王の目
早苗田に飛び立つ機首のきらめけり
汐騒に言葉とられて青葉光
紫蘇をもむ妻が悪女に見えて来る
桃食べて白桃に似し朝が来る
新緑の山近づきて雨あがり
春雨に同行二人の文字にじむ
一輪の椿落ちたり計報きく

川田玉恵(市民句会)
山中榮居()
天野玲子()
福井英子(花柳俳句会)
岡田昌子()
楠瀬秀子()
浜田美知(福生葉月会)
鍋島幸夫()
沢本吉子()